

2027年3月期中間期決算説明会

「ヨコハマ」発のロジスティクスパートナー

丸全昭和運輸株式会社

2026年11月17日

東証プライム
9068

TOPIX
構成銘柄

LOGISTICS PARTNER
丸全昭和運輸株式会社

© Maruzen Showa Unyu Co.,Ltd

目次

はじめに

1. 2027年3月期中間期決算概要
2. 2027年3月期通期見通し
3. 事業の進捗とトピックス

   第9次中期経営計画2年目の状況
4. 株主還元・企業価値向上への取り組み

© Maruzen Showa Unyu Co.,Ltd

2027年3月期中間決算：事業は順調で増収を確保するも、コスト上昇が利益を押し下げ

『物流は、愛だ。』

- 中間期は増収減益で着地、通期見通し変更なし、中間期配当増配で、通期も増配へ

2027年3月期 中間期決算

増収減益

売上高	75,557百万円
	前年同期比4.6 %増
営業利益	7,190百万円
	前年同期比4.4%減

2027年3月期 通期決算見通し

変更なし

売上高	162,000百万円
	前期比9.0%増
営業利益	17,000百万円
	前期比 9.9%増

株主還元

13期連続増配へ
（予想配当性向33%）

今期（2027年3月期）予想
（株式分割前換算）

中間配当	期末配当	年間配当
100円（＋10円）	120円	220円（＋10円）

- 主力の物流ビジネスは、前年同期比で売上4.8%増、営業利益5.9%減

- 増収減益の主要因　①売上は幅広い荷主構成が奏功し、取り扱い増加
  ②前年度実施したM&A寄与による増収
  ③発電所の定期修繕があり、発電用原料の取り扱いが減少
  ④人件費、輸送費、作業コストの伸び率が高く、利益減少

株式分割（2026年10月1日付）

1株→2株
（流動性向上、投資家層の拡大）

© Maruzen Showa Unyu Co.,Ltd

丸全昭和運輸株式会社

1. 2027年3月期中間期決算概要

© Maruzen Showa Unyu Co.,Ltd

2027年3月期中間決算　既存荷主中心に取引拡大もコスト上昇で増収減益

『物流は、愛だ。』

● 売上高755億5,700万円（前年同期比4.6%増）、営業利益71億9,000万円（同4.4%減）

ポイント

1. 売上は一部荷主で取り扱いが減少したものの、幅広い荷主構成が功を奏したこと、前年度実施したM&Aの寄与、新規案件の取り込み により、全体では取り扱いが増加して増収
2. 利益は人件費や輸送費、作業コストの上昇により減益
3. 発電所の定期修繕等により、発電用原料の取り扱い減少し減益
4. 前期に投資有価証券を売却した反動で、中間純利益は減益

売上高

75,557百万円

前年同期比 4.6%増

幅広い荷主構成が功を奏したこと、前年度実施M&Aの寄与、新規案件の取り込みにより、全体では取り扱いが増加して増収

営業利益

7,190百万円

前年同期比 4.4%減

人件費や輸送費、作業コストの上昇により営業原価・一般管理費共に伸び率が高く減益　発電用原料の取り扱い減少による減益

親会社株主に帰属する中間純利益

5,258百万円

前年同期比 12.1%減

前期に実施した投資有価証券売却益の反動により減益

© Maruzen Showa Unyu Co.,Ltd

2027年3月期中間期決算ハイライト：

『物流は、愛だ。』

- **売上高**　：建設機械、地下鉄車両、化学品の取り扱いが増加。　発電用原料、日用雑貨や建材の取り扱いは減少。
- **営業利益**　：料金適正化、業務効率化の進展。しかし、物価上昇によるコストアップなどにより営業原価および一般管理費の伸び率が高い。
  ：新規荷主や新規3PL案件が想定より獲得できなかった。
  ：台風や局所的豪雨などの災害により、荷動きが想定を下回った。
- **中間純利益**：昨年は政策保有株式の縮減を図り、約５億円の投資有価証券売却益を計上したが、今期は実績なし。

（単位：百万円）	2025年3月期中間期	売上比率（%）	2026年3月期 中間期	構成比（%）	前年同期比（%）	金額差異	期初計画	期初計画との差異
売上高	72,239	100.0	75,557	100.0	+4.6	+3,318	79,000	△3,443
営業原価	62,248	86.2	65,702	87.0	+5.5	+3,454	－	－
売上総利益	9,990	13.8	9,855	13.0	△1.4	△134	－	－
販売費及び一般管理費	2,472	3.4	2,665	3.5	+7.8	+193	－	－
営業利益	7,518	10.4	7,190	9.5	△4.4	△328	8,200	△1,010
経常利益	8,107	11.2	7,940	10.5	△2.1	△167	8,400	△460
親会社株主に帰属する中間純利益	5,980	8.3	5,258	7.0	△12.1	△722	6,200	△942

© Maruzen Showa Unyu Co.,Ltd

事業別「売上高」「営業利益」　主力の物流事業で増収

『物流は、愛だ。』

● 物流事業の増収減益が、付随事業にも波及　構内作業及び機械荷役事業は化学品の取扱増加により増収増益

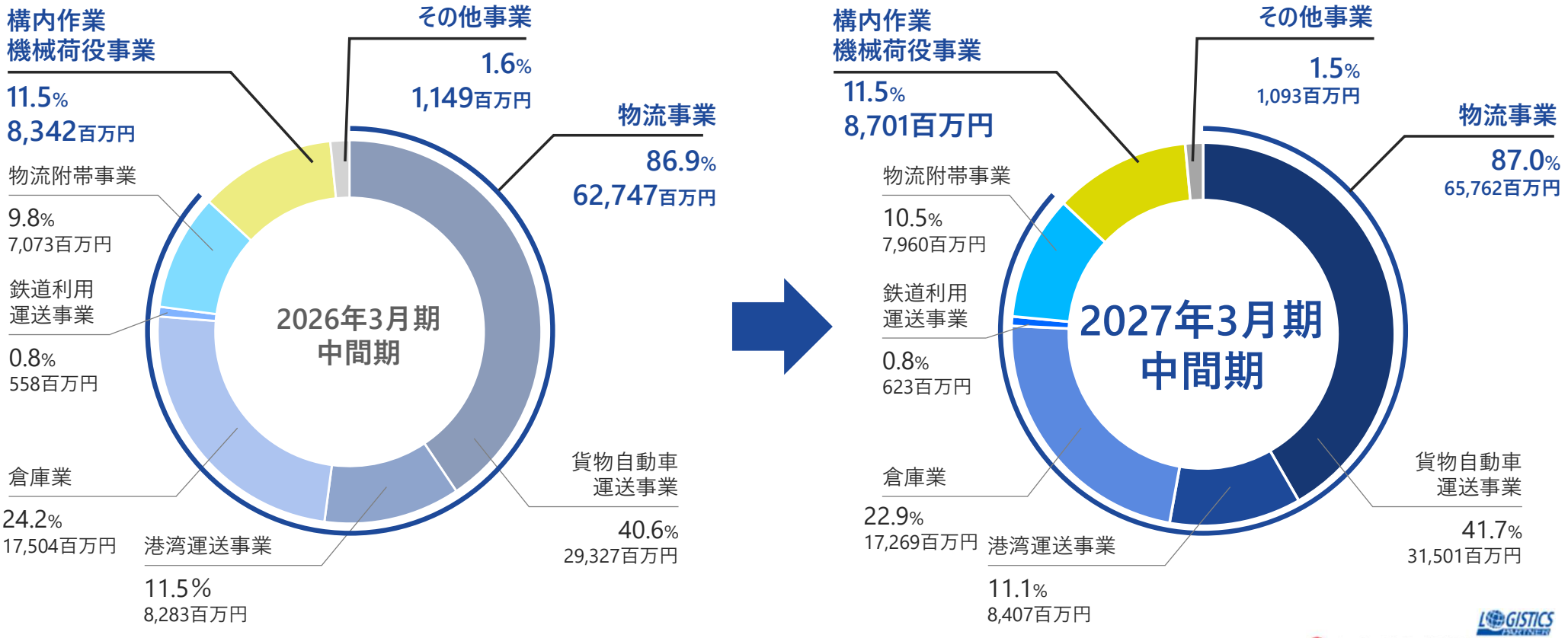
（単位：百万円）		2026年3月期 中間期	2027年3月期 中間期	構成比（%）	差額	前年同期比（%）	期初計画
全体	売上高	72,239	75,557	100.0	+3,318	＋4.6	79,000
	営業利益（利益率）	7,518 (10.4%)	7,190 (9.5%)	100.0	△328	△4.4	8,200
物流事業	売上高	62,747	65,762	87.0	+3,015	＋4.8	－
	営業利益（利益率）	6,481 (10.3%)	6,100 (9.3%)	84.8	△381	△5.9	－
構内作業及び機械荷役事業	売上高	8,342	8,701	11.5	+359	＋4.3	－
	営業利益（利益率）	799 (9.6%)	857 (9.9%)	11.9	+57	＋7.3	－
その他事業	売上高	1,149	1,093	1.5	△55	△4.8	－
	営業利益（利益率）	237 (20.6%)	232 (21.2%)	3.3	△5	△2.1	－

© Maruzen Showa Unyu Co.,Ltd

2027年3月期中間期：事業別売上構成比(前年同期比)

『物流は、愛だ。』

- **事業別売上構成バランスは前年同期比大きく変わらず。物流事業の構成比は、前年同期比同様の全売上の87.0%**
  （**物流事業**は、貨物自動車運送事業、港湾運送事業、倉庫業、鉄道利用運送事業、物流附帯事業で構成）
- 港湾運送事業、倉庫業については、発電用原料の取り扱い減少により構成比率が下がる
- 物流附帯事業は、地下鉄車両や建機類の取扱増加により増収
- **構内作業・機械荷役事業**は、化学品の取扱増加による増収



© Maruzen Showa Unyu Co.,Ltd

物流事業の内訳　売上高・営業利益の比較

『物流は、愛だ。』

（単位：百万円）		2026年3月期 中間期	2027年3月期 中間期	構成比（%）	差額	前年同期比（%）
物流事業	売上高	62,747	65,762	87.0	+3,015	＋4.8
	営業利益（利益率）	6,481 (10.3%)	6,100 (9.3%)	84.8	△381	△5.9
貨物自動車運送事業	売上高	29,327	31,501	41.7	+2,173	＋7.4
	営業利益（利益率）	1,853 (6.3%)	2,015 (6.4%)	28.0	+161	8.7
港湾運送事業	売上高	8,283	8,407	11.1	+124	＋1.5
	営業利益（利益率）	1,653 (20.0%)	1,426 (17.0%)	19.8	△227	△13.8
倉庫業	売上高	17,504	17,269	22.9	△234	△1.3
	営業利益（利益率）	2,758 (15.8%)	2,428 (14.1%)	33.8	△330	△12.0
鉄道利用運送業	売上高	558	623	0.8	+64	+11.6
	営業利益（利益率）	24 (4.4%)	28 (4.5%)	0.4	+3	14.5
物流付帯事業	売上高	7,073	7,960	10.5	+886	12.5
	営業利益（利益率）	190 (2.7%)	201 (2.5%)	2.8	+10	+5.6

© Maruzen Showa Unyu Co.,Ltd

2027年3月期中間期：物流事業の売上動向(前年同期比)

● 既存荷主の取り扱いが順調に増加（建設機械、化学品など）、新規荷主の取引獲得（地下鉄車両）

貨物自動車運送事業　増収

- 住宅資材（中東情勢の影響）や建機類、情報機器等が好調
- 既存荷主の取り扱いが増加し増収
- 複合機、酒類、穀物の取り扱いは減少

港湾運送事業　増収

- 建機類の輸出入貨物の取り扱い増加（北米向け完成車等)
- 非鉄金属の取り扱い増加
- 発電所定修による発電用原料の取り扱い減少

倉庫業　減収

- 日用雑貨（製品生産量の減少）や穀物他、既存荷主の取り扱いが減少
- 発電所定修による発電用原料の取り扱い減少

物流附帯事業　増収

- 外航船：地下鉄車両（エジプト向け）や建機類の取り扱いが増加
- 内航船：穀物や肥料等の本船荷役作業の取り扱いが増加

鉄道利用運送事業　増収

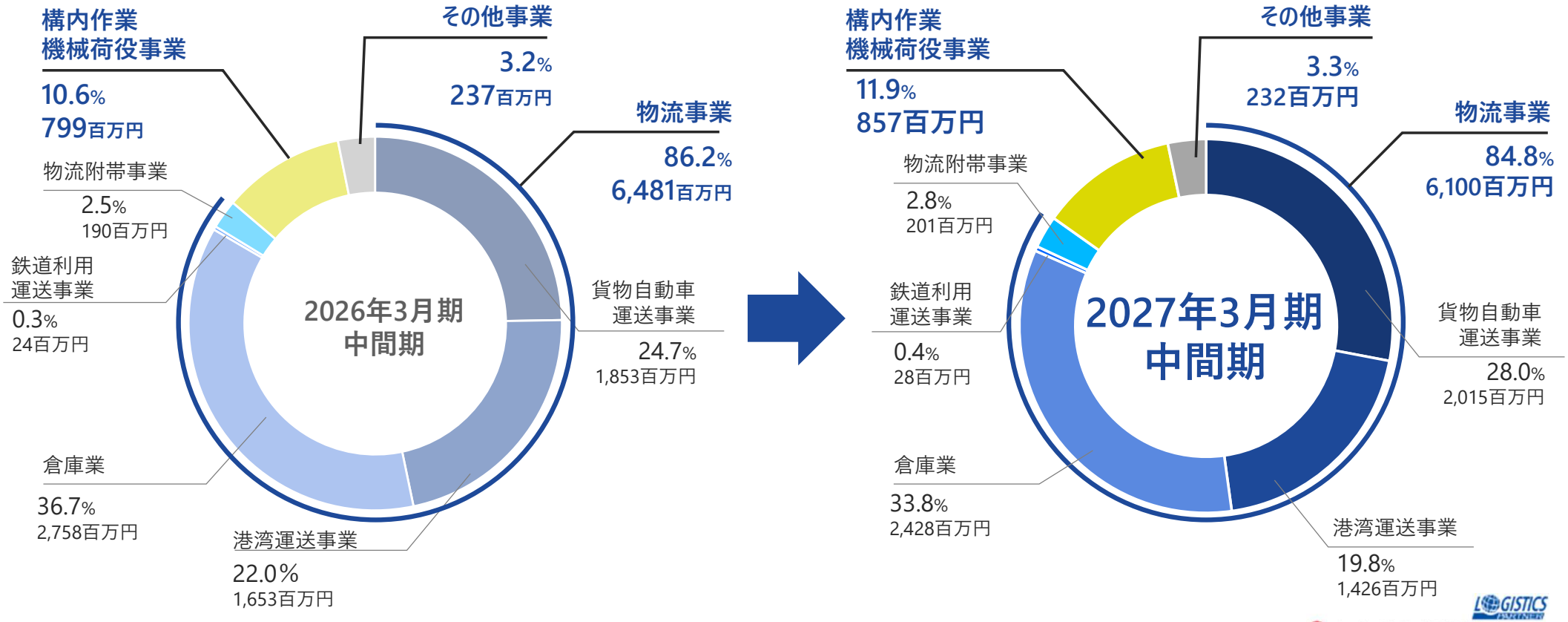
- 住宅資材や穀粉の取り扱い増加

© Maruzen Showa Unyu Co.,Ltd

2027年3月期中間期：事業別営業利益構成比(前年同期比)

『物流は、愛だ。』

- 物価上昇によるコスト増が影響し、物流事業およびその他事業において減益
- 港湾運送事業、倉庫業については、コスト増に加え、発電用原料の取り扱い減少、海外子会社における食品の取り扱い減少があり減益
- 物流附帯事業は、地下鉄車両や建機類の取扱増加により増益



© Maruzen Showa Unyu Co.,Ltd

丸全昭和運輸株式会社

バランス・シートの状況：拠点整備・拡大と基幹システム整備へ投資を積極化

『物流は、愛だ。』

- **建物：**茨城県における新倉庫建設（2026年8月竣工）及び護岸工事（2026年7月完成）
  広島県における新倉庫建設（2026年9月竣工）
- **ソフトウェア仮勘定：**次期基幹システムを構築中
- **投資有価証券：**時価上昇による増加

（貸借対照表一部抜粋）

資産の部

（単位：百万円）	2027年3月期 中間期末	前期末増減
流動資産	**71,279**	△1,088
現金預金	**17,123**	△2,430
受取手形、営業未収金及び契約資産	**26,430**	△965
有価証券	**23,093**	1,497
固定資産	**143,073**	10,856
建物	**31,521**	3,379
ソフトウェア仮勘定	**5,606**	754
投資有価証券	**41,736**	7,238
資産合計	**214,352**	9,767

負債･純資産の部

（単位：百万円）	2027年3月期 中間期末	前期末増減
流動負債	**33,299**	375
支払手形･営業未払金	**13,178**	△14
1年内返済予定長期借入金	**10,162**	353
固定負債	**28,869**	1,585
長期借入金	**11,822**	△782
繰延税金負債	**11,584**	2,200
純資産	**152,183**	7,806
株主資本	**126,934**	3,004
その他包括利益計	**22,887**	4,775
負債純資産合計	**214,352**	9,767

© Maruzen Showa Unyu Co.,Ltd

キャッシュ・フローの状況：増加するフリー・キャッシュ・フローを成長投資と株主還元へ 『物流は、愛だ。』

- **営業活動によるキャッシュ・フロー**：売上債権の減少・仕入債務の増加により前年同期比増加
- **投資活動によるキャッシュ・フロー**：成長戦略における設備投資の実施や政策保有株式の売却、定期預金の解約が昨年より減少したことにより前年同期比減少
- **財務活動によるキャッシュ・フロー**：株主還元の強化（増配）を実施により前年同期比減少

（単位：百万円）	2026年3月期上期	2027年3月期上期	増減	主な要因
現金及び現金同等物の期首残高	38,105	40,402	+2,296	
営業活動によるキャッシュ・フロー	6,065	7,722	+1,657	•売上債権の減少 •仕入債務の増加
投資活動によるキャッシュ・フロー	△456	△5,131	△4,675	•有形固定資産の取得 •定期預金解約の減少
フリー・キャッシュ・フロー	5,609	2,591	△3,018	
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,566	△3,112	△545	•配当金支払の増加
現金及び現金同等物に係る為替差額	△167	56	+223	
合併に伴う現金及び現金同等物の増加額	―	70	+70	•非連結子会社の合併による増加
現金及び現金同等物の期末残高	40,980	40,007	△973	

© Maruzen Showa Unyu Co.,Ltd

2. 2027年3月期見通し

© Maruzen Showa Unyu Co.,Ltd

見通しの前提条件：事業環境と当社の取組み

- 主力の物流事業は、今期も、3PL事業、グローバル物流事業、成長ターゲット（産業機械・半導体材料・蓄電池・電子部品・サーキュラーエコノミー）案件等の新規案件獲得を見込む
- コスト高については、価格改定による料金適正化を進め、収益力もアップへ

	下期に期待できる案件	リスク要因
全体	設備投資の増加などによる物流需要の回復 M＆Aによる新規連結会社増加による増収	● 経済状況（中東情勢）の不確実性 ● エネルギーや原材料のコスト高
物流事業	● 発電用原料の取り扱いの回復 ● グローバル物流事業の拡大 ● 3PLをはじめとした新規業務の獲得 ● 国際園芸博覧会関連の業務獲得 ● アグリ関連・危険物物流の取り扱い拡大	● ドライバー不足 ● 同業間の価格競争 ● 原油価格の高止まり、電力料の高騰 ● 軽油引取税の暫定税率廃止
構内作業 機械荷役事業	● 得意先工場構内作業は、 需要回復を見込み取り扱い増	● 特定業界・特定取引先への依存度
その他事業	● 国内の設備移設案件や機械据付案件は 需要回復を見込み取り扱い増	● 作業員不足 ● 資材費高騰

© Maruzen Showa Unyu Co.,Ltd

2027年3月期見通し：売上高1,620億円（9.0%増）、営業利益170億円（9.9%増）

- 期初見通しに変更なし
- 新規作業の取り込みや新倉庫による収益寄与を見込み、売上高は9.0%増収と前期実績よりも増収率は上昇、過去最高を見込む

（単位：百万円）	2026年3月期 実績	構成比（%）	2027年3月期 予想	構成比（%）	前期比（%）	2027年3月期 中間期実績	進捗率（%）
売上高	148,603	100.0	**162,000**	100.0	＋9.0	**75,557**	46.6
売上総利益	20,617	13.9	22,300	13.8	＋8.2	9,855	44.2
販売費及び一般管理費	5,155	3.5	5,300	3.3	＋2.8	2,665	50.3
営業利益	15,462	10.4	**17,000**	10.5	＋9.9	**7,190**	42.3
経常利益	16,648	11.2	**17,500**	10.8	＋5.1	**7,940**	45.4
親会社株主に帰属する当期純利益	12,685	8.5	**13,000**	8.0	＋2.5	**5,258**	40.4

© Maruzen Showa Unyu Co.,Ltd

2027年3月期見通し：事業別売上高・営業利益

● 主力の物流事業は前期実績を上回る増収率（前期は3.0%）を見込む。売上高116億円増（9.0%増）営業利益10億円増（8.0%増）

	（単位：百万円）	2026 年3月期	2027年3月期予想	差額	前期比（%）	2027年3月期 中間期実績	進捗率（%）
全体	売上高	148,603	162,000	＋13,396	＋9.0	75,557	46.6
	営業利益（利益率）	15,462 (10.4%)	17,000	＋1,537	＋9.9	7,190	42.3
物流事業	売上高	129,318	141,000	＋11,682	＋9.0	65,762	46.6
	営業利益（利益率）	13,427 (10.4%)	14,500 (10.3%)	＋1,073	＋8.0	6,100	42.1
構内作業及び機械荷役事業	売上高	16,884	18,600	＋1,716	＋10.2	8,701	46.7
	営業利益（利益率）	1,555 (9.2%)	2,000 (10.8%)	＋445	＋28.6	857	42.9
その他事業	売上高	2,400	2,400	+0	0	1,093	45.5
	営業利益（利益率）	479 (20.0%)	500 (20.8%)	＋21	＋4.4	232	46.4

© Maruzen Showa Unyu Co.,Ltd

2027年3月期　　案件の見通し

『物流は、愛だ。』

- 2027年3月期上期：新規3PL案件の獲得が想定通りとならず、期初計画は下回ったが、幅広い既存荷主の貨物取扱が増加
- 2027年3月期下期：既存荷主を中心に新規案件の獲得や取扱量の増加により、前年同期比増加へ

2027年3月期上期　実績案件

実績	効果
商社A社 地下鉄車両の輸出・輸送案件（既存）	輸出一貫業務の獲得による業務拡大
建設機械メーカーA社 建設機械の輸入業務案件（既存）	関東地区における取扱量の拡大
化学品メーカーA社 化学品の保管・荷役・輸送案件（既存）	関東地区における取扱量の拡大

2027年3月期下期　見込み案件

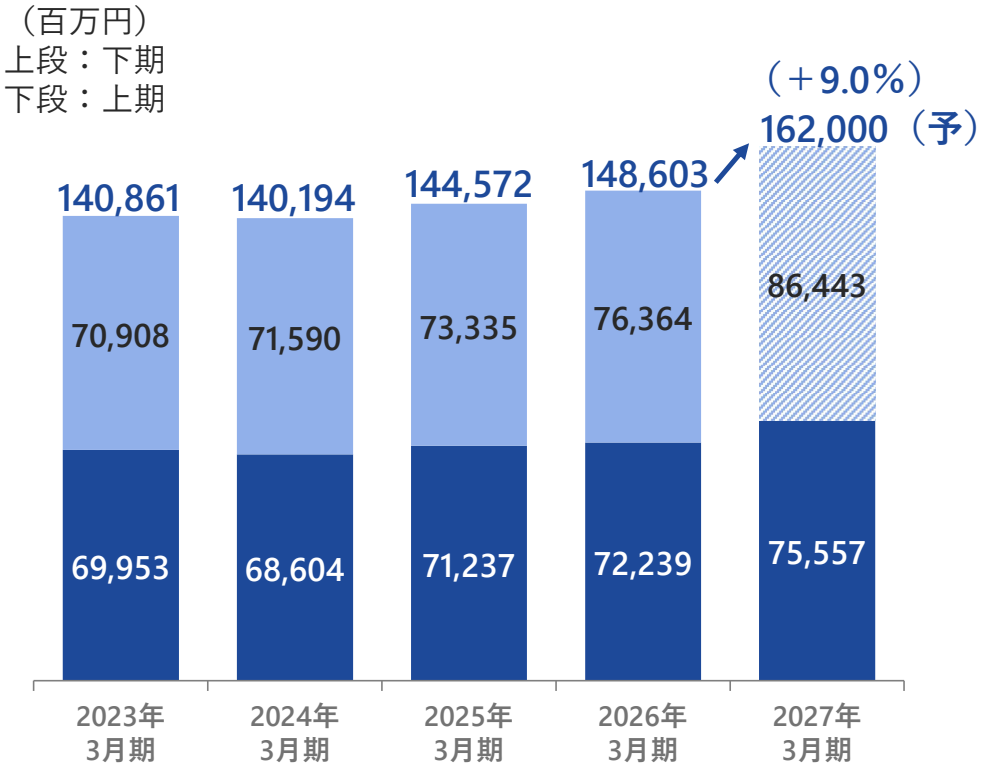
見込	効果
商社A社 地下鉄車両の輸出・輸送案件（既存）	輸出一貫業務の獲得による業務拡大
種苗メーカーA社 植物・苗の輸送案件（新規） 飲料メーカーA社 飲料・店舗什器の保管案件（新規）	国際園芸博覧会関連の業務獲得による拡大
酒類販売A社 酒類の保管・荷役・輸送案件（新規）	関東地区における取扱量の拡大

© Maruzen Showa Unyu Co.,Ltd

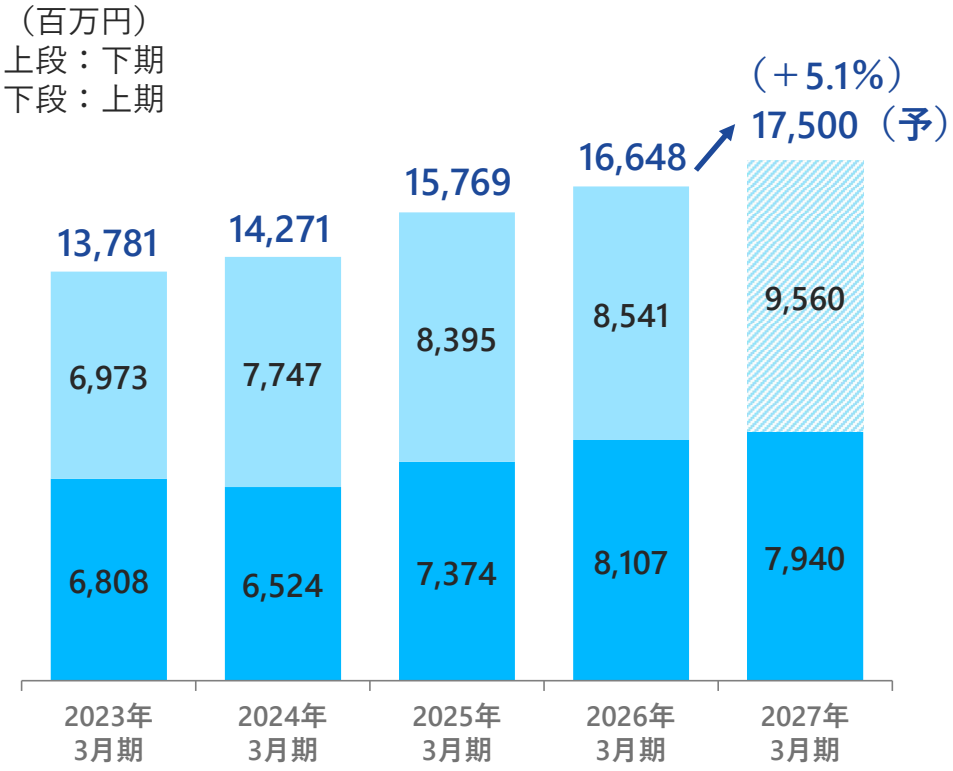
決算状況の推移：今期も増収増益で、経常利益は2014年3月期から14期連続増益へ 『物流は、愛だ。』

● 増収増益基調で、引き続き企業価値向上へ成長を持続

売上高（営業収益）



経常利益



© Maruzen Showa Unyu Co.,Ltd

丸全昭和運輸株式会社

3. 事業の進捗とトピックス
第9次中期経営計画（2年目）の進捗状況

© Maruzen Showa Unyu Co.,Ltd

当社の強み・特徴：工場構内物流からスタートした製造業務ノウハウの蓄積

お客様の構内での物流経験が豊富

お客様の工場構内物流から出発、貨物に関する深いノウハウを長年にわたり蓄積

お客様のニーズに沿った最適な物流を行う、高品質なサービスが可能

自社アセット主義

自社アセット主義による
お客様に最適な３PLを提供
「陸・海・空の複合一貫輸送を実現」

プラスアルファのオペレーション

お客様のニーズに応じて
業務をカスタマイズし、標準化
（例）「輸入大豆の製造工程の
一部代行で品質強化」

総合物流

お客様のニーズに合わせ、
多様な物流サービスを展開
３PL, トラック輸送・鉄道輸送
グローバル物流、機工業務、港湾物
保管・流通加工、構内作業など

お客様に最適な物流をカスタマイズしてご提供可能
（お客様との関係が強化・継続しやすい）

© Maruzen Showa Unyu Co.,Ltd

第９次中期経営計画の数値目標進捗状況

『物流は、愛だ。』

- 2028年3月期（最終年度）目標　売上高1,760億円、経常利益185億円
- 2026年3月期ROE 9.3%（前期は7.7%）と着実に改善中

（単位：億円）	第8次中計	第9次中期経営計画			
	2025年3月期 実績	2026年3月期 実績①	2027年3月期 予想②	2028年3月期 予想③	要目標達成額 ③－①
売上高	1,445	1,486	1,620	1,760	+274
経常利益	157	166	175	185	+19
経常利益率	10.9%	11.2%	10.8%	10.5%	
ROE	7.7%	9.3%	9.0～10.0%		－

投資計画

設備投資：400億円（DX投資を含む）

Ｍ＆Ａ枠：100億円

資本政策

配当性向　　：長期安定配当の継続を基本方針

３年間の連結ベースで35%以上を目標

政策保有株式：積極的な縮減を図る

© Maruzen Showa Unyu Co.,Ltd

第９次中期経営計画　2027年3月期中間期までの成果

『物流は、愛だ。』

事業戦略

売上の拡大

①3PL事業
②成長ターゲット
③新規・既存荷主
④グローバル物流事業

- 新規・既存荷主への提案営業による3PL化を推進
- 成長産業（半導体関連等）の案件獲得を推進
- 農産物・農薬、危険物などの取扱拡大に注力
- タイ新倉庫竣工（2026年8月）

事業競争力の強化

①3PL事業の強化
②ロジスティクス事業の基盤強化
③グローバル物流事業の拡大
④構内作業／その他の事業の強化

- 個社対応から業界対応型3PLへ向け業務の標準化を推進
- 3PL事業の自社アセット化提案
- 国内物流拠点の新設（東広島・常陸那珂等）
- 海外物流拠点拡充に向けた調査実施中

企業基盤の強化

①組織の改革
②設備投資の促進
③M&Aの実施およびアライアンスの強化
④人的資本の活用と強化
⑤DX戦略の推進
⑥営業推進体制と機能の強化
⑦サステナビリティに関する取り組み

- 管理部門の機能強化に向けた組織体制の検討
- 明伸HDの完全子会社化（2026年9月）
- 企業内大学講座の充実・指定資格取得の推奨
- 次期基幹システム構築・稼働
  （経理系システム2026年11月～稼働）
- 既存施設屋根上に太陽光発電設備の設置を推進中

© Maruzen Showa Unyu Co.,Ltd

▶敷地面積（約24,500㎡）が当社グループ西日本地区において最大規模

【場所】　広島県東広島市

【構造】　鉄骨造１階建

【延床面積】	14,876㎡
一般倉庫	8,264㎡
一般定温倉庫	661㎡
屋内荷捌き場	3,968㎡
毒劇物倉庫	991㎡
危険物常温倉庫	826㎡
危険物定温倉庫	165㎡





＊広域配送や中継輸送の拠点として優れた立地

＊一般倉庫及び、危険物倉庫を備え毒劇物・定温品にも対応可能

当社の得意分野である危険物ネットワークの更なる拡充へ

▶常陸那珂の既存倉庫の隣接地に新倉庫を竣工

【場所】　茨城県那珂郡

【構造】　鉄骨造平屋建

【延床面積】	4,996㎡
一般倉庫	2,016㎡
定温倉庫	1,998㎡
空調倉庫	981㎡



＊北関東自動車道
「常陸那珂I.C」より5分



＊15t天井クレーン装備

農産物を中心とした幅広い貨物の取り扱い増加が見込む

トピックス①－３：危険物ネットワークの拡充

『物流は、愛だ。』

















●製造業物流に強い当社のポジショニングを活かして、
特定業種での専門的物流の拡充を展開

●危険物取扱は当社の産業物流のノウハウが活かせる分野

国内拠点　25ヶ所

海外拠点　1ヶ所（タイ）

総延床面積（全拠点）
34,654.47㎡



※赤字は2027年以降に竣工予定の新規危険物倉庫

2026年8月
当社初となる海外危険物倉庫を
タイ・レムチャバンに竣工

© Maruzen Showa Unyu Co.,Ltd

丸全昭和運輸株式会社

トピックス①－４：今後完成予定の拠点

- 当社サービス拡充の基盤である物流・倉庫拠点増設を積極的に促進

拠点一覧

★ 現在着工中

名称	所在地	延床面積（予定）	ねらい	完成予定
★埼玉危険物倉庫	埼玉県加須市	990㎡	化学品を中心とした幅広い貨物の取り扱い拡大	2027年1月頃
★東深芝危険物倉庫	茨城県神栖市	1,988㎡	化学品を中心とした幅広い貨物の取り扱い拡大	2027年1月頃
★伊那３号倉庫	長野県上伊那郡	3,800㎡	一部顧客のニーズに応えて保管場所の拡大	2027年4月頃
★笠間物流センター第2期倉庫	茨城県笠間市	3,000㎡	大豆を中心とした原料の取り扱い拡大	2028年3月頃
赤穂危険物倉庫	兵庫県赤穂市	299㎡	危険品保管ニーズに応えるための倉庫増設	2028年3月頃

© Maruzen Showa Unyu Co.,Ltd

トピックス②：2026年8月 タイ王国 レムチャバン地区 新倉庫竣工

▶丸全昭和運輸グループとして、米国のロサンゼルス・中国の平湖に続く3拠点目の海外自社倉庫

【場所】　タイ王国チョンブリー県ロジャナ・レムチャバン工業団地

【アクセス】倉庫からレムチャバン港まで約10㎞・15分

【構造】　鉄骨鉄筋コンクリート造１階建
有効階高　倉庫棟　10.0 m
危険物倉庫　6.0 m
空調倉庫　6.0 m

【延面積】一般倉庫　5,103 ㎡
危険物倉庫　1,089 ㎡
空調倉庫　231.25 ㎡

【床荷重】2.5t/㎡

【設備】　庫内CCTV設置
ドックレベラー高床式
全天候対応捌き場





トピックス③：明伸ホールディングの全株式を取得（2026年9月30日）

年月	社名	M&A対象	目的・ねらい
2002年 4月	**昭和物流 昭和アルミサービス**	荷主物流子会社（化学）	化学業界の取り扱い拡大
2004年 7月	**スマイルライン**	荷主物流子会社（日用品）	日用品業界の取り扱い拡大
2006年10月	**武州運輸倉庫**	荷主と直接取引のある物流会社	日用品業界の取り扱い拡大
2015年 2月	**日本電産ロジステック （現・丸全電産ロジステック）**	荷主物流子会社（電子部品）	電子部品業界の取り扱い拡大
2019年 4月	**国際埠頭**	埠頭会社	港湾物流サービスの拡大
2025年10月	**日東富士運輸 （現・M&Fロジスティクス）**	荷主物流子会社（製粉）	製粉業界の取り扱い拡大
2026年 9月	**明伸ホールディング**	物流会社	機工・物流ネットワーク、 ノウハウの取り込み

© Maruzen Showa Unyu Co.,Ltd

トピックス③ ：明伸ホールディングの全株式を取得（2026年9月30日）

精密機械の輸送・保管に、据付・メンテナンスを組み合わせ、高付加価値物流を強化

取得の概要	明伸ホールディングの発行済全株式を取得。持株会社および100％子会社の株式会社明伸をグループ化。
中核事業会社	株式会社明伸（本社：茨城県水戸市）。水戸南IC至近の水戸市周辺に８拠点、倉庫内にクリーンルームを備えており、精密機械のメンテナンスにも対応。従業員約７０名。
事業上の強み	機械器具設置工事業の許可を有し、精密機械分野における「倉庫・輸送・機工・メンテナンス」を一気通貫で展開。長年の実績と高い専門技術を保有。北関東での取引基盤を持つ。

取得のねらいと期待される効果

当社の物流基盤	明伸の機工・物流機能	期待される効果
全国の物流ネットワークと既存顧客基盤	精密機械輸送、保管、据付・メンテナンスの技術と北関東の顧客基盤	輸送から据付・メンテナンスまでのワンストップ化。北関東での相互顧客開拓・クロスセルを通じた収益基盤の強化

物流×エンジニアリングで高付加価値サービスを強化

© Maruzen Showa Unyu Co.,Ltd

トピックス④：2026年10月1日付で株式分割（１：２）を実施し、個人株主獲得を強化『物流は、愛だ。』

背景

投資単価を引き下げ、個人投資家をはじめとする幅広い投資家層の参加を促進

目的

単元株主数（2,454名、2026年9月期末）増加と保有の分散化を促し、
株式の流動性向上と企業価値向上の基盤整備

1株 / 7,230円

株式分割前（9/30終値）

発行株式数
20,618,244株

1株 / 3,580円

株式分割前（10/1終値）

発行株式数
41,236,488株

© Maruzen Showa Unyu Co.,Ltd

トピックス⑤：企業内大学(MLC)を起点に人財育成を推進

中期経営計画の達成と企業価値向上を支える人財育成

現場力とお客様からの信頼を基盤に、企業内大学（MLC）の機能を強化。物流の専門性と課題解決力を備えた人財を育成し、お客様のサプライチェーン全体を支える組織力の向上を図ります。



社員教育の実施状況

- 3PL及び物流改善技術の知識とスキルの向上を目的とした実践教育の実施

  物流改善技術士講座を開講、物流改善技術の専門性 を高め、プロフェッショナル人財の育成を推進

- 企業内大学（Maruzen Logistics College）の機能強化

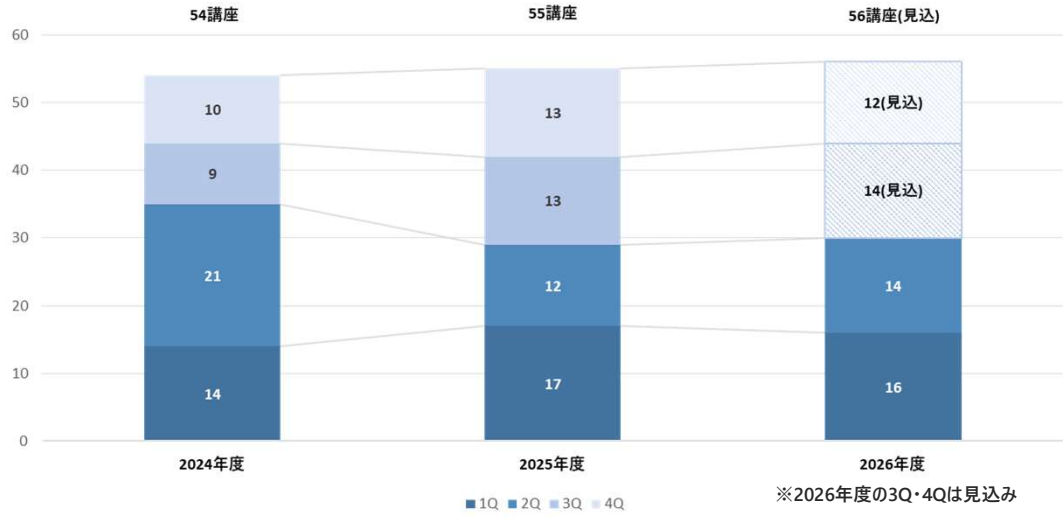
  働き甲斐と自己効力感を高めるカリキュラムの導入
  管理職から一般職まで、心理的安全性に関する階層別研修を実施

- 専門資格取得支援

  前年度の指定専門資格取得支援に加え、新たな資格の追加、取得支援を実施中

企業内大学（MLC）の取り組み

研修講座数の推移



※2026年度の3Q・4Qは見込み

© Maruzen Showa Unyu Co.,Ltd

丸全昭和運輸株式会社

トピックス⑥：物流会社ならではの「安全・安心」への取り組み

『物流は、愛だ。』

安全・安心な物流を提供することが今後の成長につながると認識

AI搭載ドライブレコーダーの導入





- 全車両にAIドライブレコーダーの導入
- AIを搭載するドライブレコーダーは、ドライバーの挙動を画像認識AIで分析し、わき見・居眠りなど運転中の危険行動を即時にドライバーへ警告
- わき見や携帯操作による事故の発生0件
- 道交法違反等の不安全運転を減少させ、危険回避動画等をドライバー間で共有し、安全意識を更に向上

トラック／フォークリフト安全運転技能競技会





- 全グループと協力会社から選出された選手による、トラック、フォークリフトの運転技能競技会をそれぞれ毎年開催
- 当社の強みである品質にさらに磨きをかけ、グループ横断の競技会にすることで、グループ間の連携をさらに強化
- 今後も、定期的に競技会を開催することで、グループ全体の事故を撲滅、安全意識を向上へ

積極的なQC活動の促進

MAQ



- 当社グループでは、長年MAQ活動（QC改善活動）を改善活動のDNAとして位置づけており、毎年全社大会を開催
- MAQ活動は業務の効率化・品質向上・人材育成の三本柱を軸に、社員一人ひとりの創意工夫を活かした現場改善を継続的に推進、お客様や社会のお役に立つ活動に

*MAQ：Maruzen All Qualityの略称

© Maruzen Showa Unyu Co.,Ltd

４．株主還元・企業価値向上への取り組み

© Maruzen Showa Unyu Co.,Ltd

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について

● PBR1倍前後で推移、ROE向上とPER（利益成長期待）を高める成長戦略の浸透の強化が課題

- 株価は、上昇基調にあり、実績PBRは1倍前後で推移（実績PBR 0.93倍、予想PER 10.72倍、株価（終値）3,615円（2026年9月30日現在））
  他方、当社の成長性を一層評価していただくために、企業価値向上策への取組みは持続的に行う必要あり
- PBR＝ROE×PER　の関係から　従来通り　PBRを上げるためのROE向上とPER改善の取組みを推進
- PER改善のためにはPER＝株価÷EPS（一株あたり利益）なので、成長戦略のアピールを一層強化して、EPS期待成長率を上げる必要あり

PBRの改善

企業価値（株価）の向上

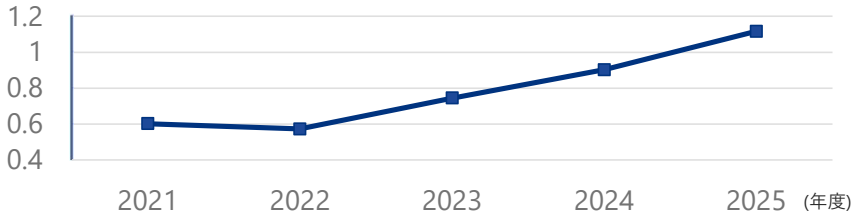
ROEの向上

- 利益率の向上
- 積極的な配当
- 政策保有株式の縮減　等

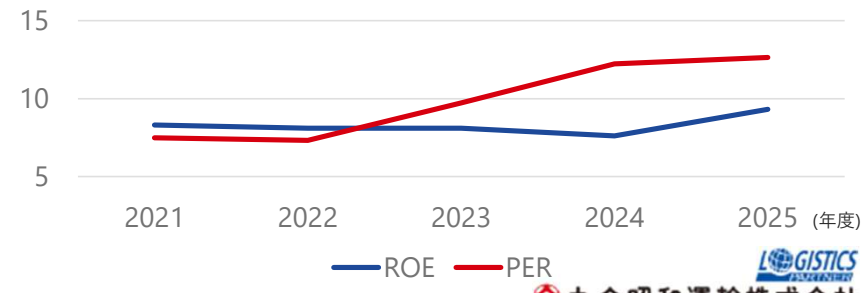
PERの改善

- 成長戦略のアピール強化による成長イメージの浸透
- IR活動の更なる活発化

PBRの推移



ROEとPERの推移



© Maruzen Showa Unyu Co.,Ltd

キャッシュフローアロケーション：設備投資は合計121億円（2025年4月～2026年9月）を実施済

- 建築資材の高騰や調達リードタイムの長期化に対応するため、仕様調整および投資対効果の精査を慎重に進めている

キャッシュ・イン（2025～2027年度）
営業C/F（530億円）
現預金＋投資有価証券売却（100～120億円）
外部調達（+α）

キャッシュ・アウト（2025～2027年度）	2025年度実績	2026年度中間期までの進捗	2026年度計画
成長投資（270億円） 国内外物流拠点の拡充 3PL高度化投資 物流プラットフォーム構築	31億円	35億円 • 東広島物流センター • 常陸那珂新倉庫他	73億円 • 埼玉危険物倉庫 • 東深芝危険物倉庫他 • 伊那3号倉庫 • 笠間物流センター2期倉庫 • 赤穂危険物倉庫他
DX投資（50億円） 次期基幹システム開発 機器・施設導入	13億円	7 億円	15億円
維持更新投資（80億円） 倉庫・ターミナル・トラック	26億円	9 億円	38億円
M&A（100億円）	日東富士運輸株式取得	明伸HD株式取得	引続き積極的に案件の検討実施
株主還元（130～150億円）	56億円 ▪ 2026年3月期配当 210円/株（40円増配） ▪ 自己株式購入：21億円	▪ 2026年3月期中間期配当 前期比10円増配：100円/株	▪ 2026年3月期通期配当 120円/株（株式分割前） ▪ 更なる増配・機動的な自己株式取得を検討中

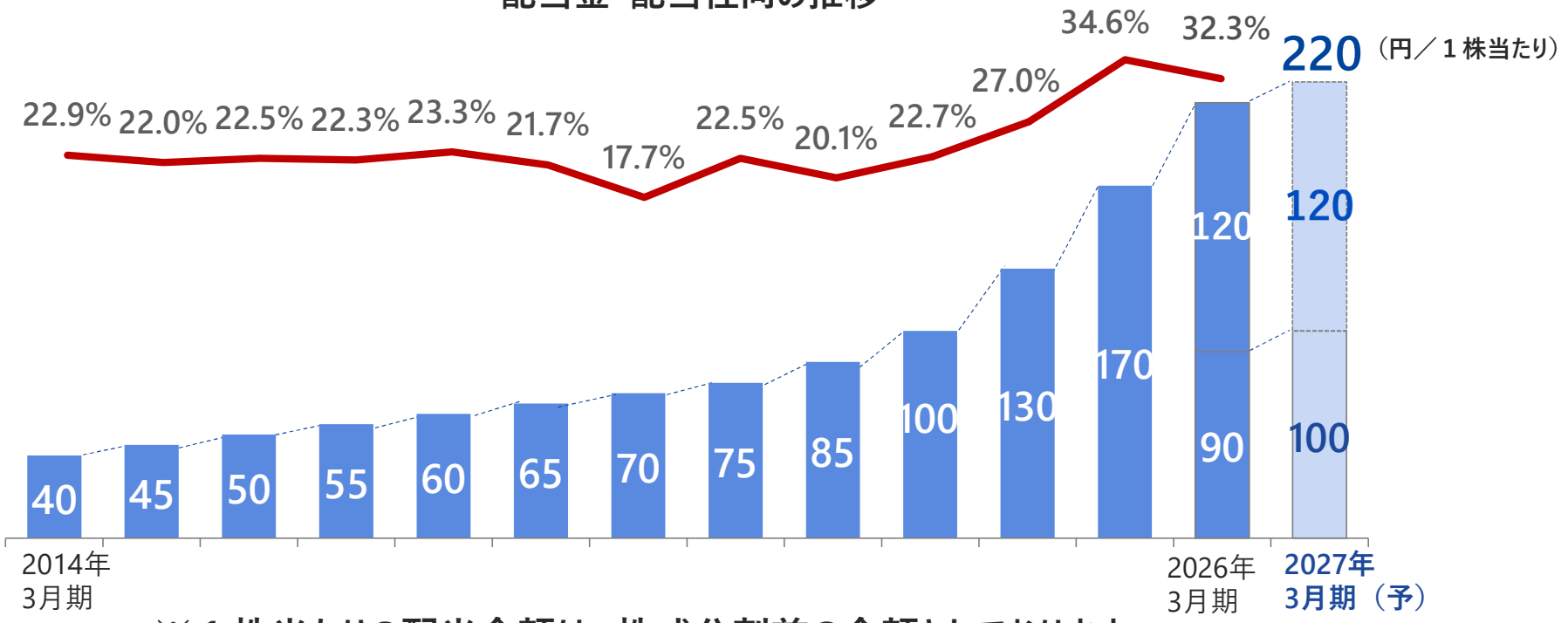
© Maruzen Showa Unyu Co.,Ltd

株主還元： 2027年3月期中間期増配前期比10円増配の100円を予定

基本方針：業績と配当性向、株主資本利益率などを総合的に勘案し、長期的に安定した配当を継続

- 2027年3月期まで13期連続増配を想定 (通期は220円を予定）
- 投資資金を確保しながらも、3年間の連結ベースで配当性向35%を視野に、株主還元を引き続き積極化

配当金・配当性向の推移



※１株当たりの配当金額は、株式分割前の金額としております。

© Maruzen Showa Unyu Co.,Ltd

免責情報

- 本資料は、当社内容をご理解いただくための資料であり、投資勧誘を目的とするものではありません。
- 本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、本資料の発表日、現在において入手可能な情報から得られた判断に基づいており、正確性を保証するものではありません。
- 実際の業績等は、様々な不確定要素により異なる場合がございますことをご了承ください。

東証プライム
9068

2026年11月

丸全昭和運輸株式会社

総務部 法務・株式課
TEL 045-671-5716
E-mail s-kabushiki@maruzenshowa.co.jp

© Maruzen Showa Unyu Co.,Ltd